

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間

会報 No.43

二〇〇七年九月一六日発行

川崎市幸区古市場 2-109
京浜協同劇団内
TEL 044-511-4951
郵便振替 00250-3-18369

活動をもっと創造的に

「文化の仲間」第11回定期総会を終えて

山木 健介

第一一〇回定期総会を九月九日に開催しました。今年のゲストは濱田重行さんです。濱田さんは神奈川県立青少年センターの舞台技術課に勤務されています。そして、様々な団体の芝居の脚本・演出を手がけていて、毎年五月に公演する市民参加のミュージカル「がんばれッ！ 日本国憲法」の脚本・演出は二〇年になるそうです。また、劇団蒼蒼生樹あおいきの代表としても活躍されています。

濱田さんは、「創造したい、芝居をしたいと思ってやってきた」「生きている人たち、たたかっている人たちが私の師匠」「たたかいはより多くの人に



講演する濱田さん

知らせるのは、文化だと思った」「文化・芝居という武器をかかげつつ、突き進むしかない」「ジジイ死ぬな、ババア頑張れ」「絶えることなく考えるということ、生きていることの存在を示したい」「芝居を続けていきたい」と、芝居に対する熱い思いを語ってくれました。

死ぬまで芝居を続ける、創造し続ける、ジジイ・ババア頑張れ、という劇団・文化の仲間への連帯の言葉をいただきました。

定期総会では、会員拡大の方策、例えばかつて劇団の芝居に協力出演してくれた人たちに声をかけるという意見や、劇団員と文化の仲間の「お楽しみ会」を単なる飲み会ではなく、もっと創造的に考えてみるなどの意見、そして、せっかく文化の仲間であらうのにピアノを買ったのに、ピアノレッスンをする人が少ないので、知り合いに声をかけてくださいという訴えなどがありました。また、文化の仲間の「文

化」の範囲がせばまっていなかったか、たとえば九条の会など、生活に密着して視点を広げて活動してもいいのではないかと、という意見もありました。総会後の交流会では、例年どおり西海亭の料理に舌鼓を打ち、劇団のマリリンこと吉武さんのマジックを見て、なごやかな交流がされました。今年の総会もゲストの話をはじめとして、楽しく元気をもらった総会でした。

役員は全員留任でしたが、以下のとおり選出されました。

代表世話人 二村柊子、齊藤博章、高橋明義、藤崎秀子

事務局 山木健介、須田セツ子、西川日女子

世話人 代表・事務局以外では、小野寺晃、佐藤友吉、角田博志
(以上一〇名)



総会での熱心な討論

(写真：角田博志)

楽しむことが できてよかった

演劇まつりに出演して

藤原 章寛

私の初めての舞台。役はパン。なんと主役です。初めてその役だと聞いたとき、あまり表には出していませんでしたが、内心ではとても喜びました。特にプレッシャーもなく、「よし、やってやろう」という気持ちで稽古にのぞみました。稽古が進むと、自分の能力のなさにじよじよに気付き始めました。そして演出や他の方々からいろいろな駄目が出て、しかもそれがうまく出来ず、プレッシャーに押しつぶされそうになりました。しかしその度に「俺なら出来る、俺なら出来る」と何度も頭の中で繰り返しました。そう思っていないと何もかもが駄目な気がしてどんどん出来なくなってしまうそうでした。

集団で一つのものを創り上げるということはとても難しいと分かりました。自分一人がうまく出来ないとそこで流れが中断してしまいます。その度に気持ちを入れ替えなければなりません。何度も何度も中断させてしまい、他の方々にどれだけ迷惑をかけたでしょう。本当に申し訳ありませんでした。

最初の稽古のことは今でも覚えています。緊張で胸が張り裂けそうだったこと。たくさん視線稽古に入る前、怖くて仕方がなかったことなど、忘れることが出来ません。しかしいつのまにかそのような気持ちはなくなっていました。

ポン役である先輩の古木さんがビデオを持ってきて下さり、動きを撮ってみました。そして見てみると、「あなたは何をしているの？何がしたいの？」という感じでした。見れば見るほど変なところろしか見当たりません。これほどまで思ったように動けな

いとは思いませんでした。こんなものをお客様に見せられるのか？素人ながらそんなことまで考えてしまいました。ポンと合わせなければいけないところが多々あり、私はかなり迷惑をかけたと思います。申し訳ないです。

何をどうすればいいのか分からないでただ我武者羅に言われたことをやってきました。それが正しかったのかは分かりません。私はこの公演を通して成長することが出来たのでしょうか？何かを掴むことが出来たのでしょうか？自分では全然分かりません。

本番は、出来はどうあれ楽しむことが出来てよかったですと思います。しかし結局最後までパンを掴めなかった気がします。もつと頑張ります。公演も無事終わり、これで私は子どもたちから人気者、と思いきや、全然駄目でした。人気になるどころか怖がられました。ショックです。たださえ元の顔が怖いのに、メイクでさらに怖くしてしまったのが原因



「はだかの王さま」の舞台①

(写真：長坂訓弘)

だと思えます。これは反省です。見て下さった方々、本当にどうもありがとうございました。(京浜協同劇団員)

たっぷりと

楽しませてもらった

子どもが演劇まつりに出演して

小林 正美

「子供が少なくて困っているんだって！」「人助けだと思っただけよ！」と勝手に参加を決めてしまった親、「こづかい値上げしてくれるならいいよ」とのんきな息子。私たち親子の演劇初体験がスタートした。

四月・五月は学校や家族の予定を優先し休みがちだった。六月に入って微妙にセリフが変わっていたり、踊りが違っていたりで、これは大変、休んでいる場合ではないと演劇に無知な親はあわてはじめた。ところが息子というと演じることに興味ももてぬまま稽古に参加し、頭痛・腹痛・下肢痛の訴えは増えるばかり。やる気のなさは一目瞭然で、あまりの態度の悪さにこれでは皆さんにご迷惑をかけるしまうと参加の辞退を考えたほどであった。

七月に入ると主役の二人やベテラン俳優さんたちの演技はピリッとひきしまり、緊張感も伝わってきた。小道具や衣装も完成品となり、劇団員の方々が個々の役割をしっかりと果たしている、なんというすばらしいチームワークだろう。とにかくすべての事に驚きの連続であった。

こうして私たち親子は「はだかの王さま」に夢中となっていた。週三回の稽古、夜一〇時過ぎの帰宅、疲労はかさなっていったが、息子と一緒に稽古に参加せずにはいられなかった。気楽な立場の親は



「はだかの王さま」の舞台②

稽古場のS席を確保し、たつぷりと楽しませてもらった。

さて、いよいよ当日。舞い上がっているのは親のほうだ。小学校の担任や友人・塾の先生と生徒たち・祖母叔父叔母やいとこたち、たくさんの方々が来てくださった。挨拶まわりにてんてこ舞い。二日とも素晴らしい上演だった。息子の出来はともかくがんばったことをたつぷりと評価しよう。お疲れ様でした。

わが息子が将来演劇関係の仕事にすすみたいと言いつつ、い出したとしたら、もちろん反対するはずがないが、演出家？・脚本家？・俳優？・大道具小道具担当？・音響担当？ どれも本当に魅力ある仕事だし、なぜか迷っているのは親の私。

関係者の皆様には貴重で、かつ、楽しい体験をさせていただき、ありがとうございます。皆様の健康と今後のご発展を祈ります。

平成一九年八月（小林千礎の親）

市民の期待に応えて

——「演劇まつり」あれ・これ

齊藤 博章

「かわさき演劇まつり」は、『財団法人川崎市文化財団を甲とし、かわさき演劇まつり実行委員会を乙とし、甲乙間において、かわさき演劇まつりについて、次のとおり委託契約を締結する。』ではじまるかわさき演劇まつり開催事業委託契約書にもとづき実施している。

文化財団は、『市民の文化活動の振興を図り、もって市民生活の向上と川崎市における新しい市民文化の創造に寄与することを目的とする』として一九八五年に川崎市によって設立された。事業内容は、五つの分野、二六の多岐にわたっている。演劇まつりは、かわさき市美術展・市民アンデパンダン展・市民第九コンサートとともに川崎市受託文化事業のひとつとして位置付けられている。なんとも分かりづらい仕組みである。

「かわさき演劇まつり」は、第一次稽古場（旧木造稽古場）建設計画を進めていた京浜協同劇団への資金援助の要請に対する、川崎演劇協会を受け皿とした五十万円の予算措置ではじまった。人形劇団ひとみ座・日本ゼオン演劇部・劇団ふるくわ・京浜協同劇団の四集団による六つの演目でスタートした。当初は、教育委員会と川崎演劇協会が直接交渉して手探りの状況で回を重ねた。入場無料が川演協の財政を圧迫し、継続が危ぶまれたが暫らくは賛助金（カンパ）を募ることで凌いだ。

三十三回を迎えることができたのは、京浜協同劇団に負うところがおおきい。第一回以降、演劇集団高津／川崎市民交響楽団／多摩芸術学園／川崎演劇

塾／川崎市民劇場／演劇ぐるーぷ・ちゃんちゃんこ／デフパベットシアター・ひとみ／劇団辻シアター／南河原こども文化センター太鼓クラブ／平間わんぱく少年団／行動座／劇団イムザックと市民の出演参加で今日に至っている。

第十回の「走れメロス」が合同公演の始まりである。「きばのないおおかみ」「タックサインの冒険」などは、大きな反響があった。第十九回「オバケちゃん」以降は「おとなと子供がともに楽しめる芝居」をモットーに出演者に市民（多くは子供たち）を迎えた。市政だよりやチラシを見て申し込んでくる市民が増えてきたのもこの頃からである。

第三〇回から隔年とし、前年は「かわさき演劇講座」を開き、芝居の楽しさを広めていくスタイルが定着しつつある。今回の「はだかの王様」にも多数が出演した。川崎北部の多摩市民館が会場だったが、入場待ちの長い列が市民の期待を表していた。

（川崎演劇協会会長）



「はだかの王さま」の舞台③

京浜の演劇・戦後編 その序章④

自立劇団と

地域の演劇

須田 輪太郎

年が明けて一九四八年。神奈川自立劇団協議会(略称・神自協)が正式に発足した。

京浜芸術学校の開催でも解るように、「労働者が自分の手で演劇を創る」という、新しい文化創造の流れが勢いを増していた。

東芝小向・同堀川町・日本冶金・富士電機・鋼管川鉄・日本精工など、三十以上の職場サークルと、「文化団体かまくら派」という劇団らしくない名も含めて、神自協加盟劇団一覧表が神自協事務局に貼り出された。

職場サークルの殆どは、組合文化部の支援を得ているが、会社側も物心両面の応援をする、いわば「労使協調」が自立劇団の成立基盤だったのである。いま流にいえば、都市対抗の野球試合で勝ち進むナインに、会社はもちろん地元市民まで応援するのに似ている。

四七年九月の東京自立劇団コンクールも、神自協が四八年秋に開催予定のコンクールも、それは好むと否とに関わらずやらねばならない、労使協調路線

の確保のためにも。

新憲法に明記されている「国民が文化的に生きる権利」は、職場演劇や文学サークルなど、労働者の芸術文化を創り出すサークル活動に権利行使の典型を見ることが出来る。

だが、それは労働組合の庇護を享ける組織労働者に限って権利の行使が出来たといえる。かくいうボクも、国鉄労組大井支部にサポートされているから、公用外出扱いで自立劇団の会議などに出られるのだ。

自家製造業や町工場で働く人達の文化活動は、望んでも叶わない事情があっただろう。「よこはま葡萄座」という戦前からの歴史をもつ劇団は、神自協に加盟していない。梨地四郎・山本幸栄・神谷量平さんの名前に続いて萩坂桃彦さんというクロサンの親友の名があり、四八年当時は演出を担当していた。

萩坂さんと黒沢さんは一九三六(昭和十一)年に「川崎協同劇団」を建ち上げた。クロサン十九歳の時だ。クロサンが兵役に就いたこともあって、この劇団はすぐにポシヤッタが川崎の地域劇団を目指す劇団だったことは確かだ。ハギさんとクロサン、二人は築地小劇場の「労働者割引券」を手に入れ、電車賃節約のため自転車を連ねて築地通いをした。

世を挙げて戦争へ戦争へとひた走る中で、築地小劇場へ芝居を見に行くだけで、特高警察からマークされるような時代だった。しかも、築地の舞台には及ばないが自分達の創作劇を地域の人々に見て貰おうという活動は、それはもう二重三重の障壁に囲ま

れた苦難に満ちた演劇活動だったのである。

それでも、地域(市民)演劇の先駆者達はめげずに頑張った。萩坂さんはクロサンの兵役解除を待つて一九四〇(昭和十五)年に川崎で「建設座」を結成する。

同じ頃横浜では、「よこはま葡萄座」の前身である「太陽座」が梨地四郎さんを中心に活動していたが、梨地さんも治安維持法の予防拘禁で検挙され、釈放されたと思ったら教育召集で軍隊入りして、太陽座は解散状態になってしまふ。この辺の経緯は、梨地さんの自分史的戯曲「君死にたもうことなかれ」で語られていて、戦後の一九五〇(昭和二五)年に「葡萄座」が萩坂桃彦演出で上演している。太平洋戦争突入の直前に結成された「建設座」は大政翼賛会文化部傘下に入るが、そんな保身策も功を奏せず間もなく解散する。

今でこそ「地域に根ざす劇団」などと気楽にいえるが、芝居も音楽も戦意高揚に役立つもの以外は、徹底的に弾圧する治安維持法は世界に類を見ない日本固有の悪法なのだ。

戦後、平和憲法のもとで文化国家を自称するこの国で、労働者の自覚された文化活動の開花を自立劇団運動の興隆にみてとれるが、未組織の働く人や一般市民を許容する「市民劇団」や地域演劇の大切さを知るのは、四八(昭和二三)年夏の東宝争議に始まる、軍国主義復活の兆候を見てからになる。

(つづく)

(人形劇団ひとみ座・前代表)

劇団の真価が

問われる公演

— 木下順二の名作『巨匠』に挑む

京浜協同劇団はこの秋、木下順二作の『巨匠』を上演します。そこで編集部は制作の城谷護さんへの公演の意図を聞きました。

●どんな作品ですか？

人間だれしも「譲ることのできない大事なもの」があります。この作品は、時の流れに翻弄されず最後まで人間としての大事なものを守り抜いた一人の老優を描いた感動的な作品です。

●ちよつと重たい芝居のような気がしますが…

重たいか軽いかと問われれば決して軽いものではありません。しかし、追い詰められた状況のなかで、輝く瞬間を見せる一人の人間の美しさに、観る人は心を洗われる思いがすることでしょう。さわやかな感動を受けることができるでしょう。

今、世の中はややもすると表面的なものだけでいえるんことが流されてしまう傾向があります。それだけに、時代と向き合う人間の心の奥底まで描き

切ったこの芝居から私たちは生きる勇気を与えられる思いがするのです。

●どんな内容なんですか？

描かれる時代は一九四四年、そう、第二次大戦の終わる一年前です。所はナチス・ドイツに制圧されたポーランドです。

ある小学校の教室が舞台となります。医師、前町長、女教師、老人、俳優など七人が身を潜めています。そこへナチスのゲシュタポ（秘密警察）が入り込んできて、ブラックリストに載っている知識人四人を殺害すると言うのです。一人ずつ身元を確認され、知識人と確認されれば手を後ろに組まれ壁に向かって立たされます。身分証明書に簿記と書かれていた老人は知識人ではないと対象から外されます。しかし、その老人は突然シェイクスピアの『マクベス』を朗誦し始めたのです…

●ドラマチックな予感がしますね。

そうです。ハラハラします。この芝居は戦後を代表する劇作家、木下順二先生の秀作です。しかし、十数年前に民芸で上演されただけで今、なかなか上演されません。この骨太い作品を、もし我々働く劇団がやったらどうなるか、挑戦してみたくなっています。演出には久しぶりに劇団創立メンバーの細田寿郎が当たります。ご期待ください。

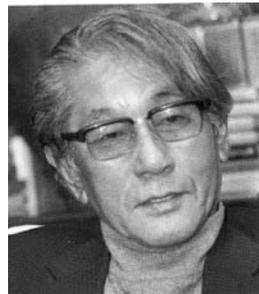


京浜協同劇団創立 50周年プレ企画 (第76回公演)

きよ しょう 巨匠

■木下順二追悼公演

木下順二作 細田寿郎演出



公演日

2007年

11月23 (金・祝) 昼・夜 24 (土) 昼・夜 25 (日) 昼

11月30 (金) 昼・夜 12月1 (土) 昼・夜 2 (日) 昼 (昼は2時、夜は7時開演)

会場 スペース京浜 (劇団稽古場小劇場)

前売 一般 2,500円 シニア (70歳以上) 2,000円 学生 (18歳以下) 1,500円

問合せ 京浜協同劇団 Tel 044-511-4951 Fax 044-533-6694 Eメール keihin@kinet.or.jp

◎文化の仲間通信◎

◆第5回 川崎の和太鼓と民謡・民舞まつり

この指とまれ わっ・和・輪

日程 9月24日(月・祝日) 午後一時〜五時

会場 麻生市民館大ホール 小田急・新百合ヶ丘

※入場には参加権が必要です

主催 川崎の和太鼓と民謡・民舞まつり実行委員会

問合せ 吉田 ○八〇・一〇三八・九〇八九

川崎の太鼓好きが力を合わせて二〜三年に一度開催している「まつり」が五回目を迎えます。今年は二三団体の参加です。腹話術ゴローちゃんも司会などで参加します。

◆第51回国鉄のうたごえ祭典&神奈川のうたごえ祭典

みんな元気か! かたろう夢をうたおう愛を

日程 9月30日(日) 開演 午後二時

会場 横浜市 都筑公会堂 市営地下鉄・センター南

入場料 一般一九九九円/小中高障一〇〇〇円

ゲスト 竹田恵子

プログラム 国鉄のうたごえ/神奈川のうたごえ/

国鉄と神奈川、そして会場のみなさんと一緒につ

くる舞台

問合せ 実行委員会 ○四五・二二二・二四四七

神奈川と国鉄が、心と声を合わせ、一〇〇名からなる迫力の男声合唱、郷土の太鼓、さわやかな女声合唱をお届けします。

◆川崎市民劇場 第280回例会

グループる・ばる公演 片づけたい女たち

作・演出 永井愛/演出 木野花/出演 松金よね

こ・岡本麗・田岡美也子

日程 10月1日〜10日

会場 宮前・幸・多摩・エポック中原の各市民館

仕事一筋のツッコ、姑問題に悩むオチヨビ、容貌を武器に生きるバツミ、三人の女性の思いがけない光景:。

問合せ 川崎事務所 ○四四・二四四・七四八一

溝の口事務所 ○四四・八五五・五九一六

◆山寺圭子「うた・唄・歌」

秋風にのって

日程 10月5日(金) 午後七時開演

会場 めぐるパーシモンホール・小ホール

入場料 全席自由三五〇〇円

ソプラノ 山寺圭子 ピアノ 佐藤恵

演目 はるかに・あとでは・夕べに・最後の歌(トステイ)、ああ、愛する人、別れなくてはならない(R・シュトラウス)、手のひらを太陽に(いずみ たく)、鶴(Ya・フレンケリ)ほか

問合せ 山寺 ○四四・五一一・八九九五

◎稽古場を利用して活動しています◎

▼モダン・ダンス Kawasaki Jr. Class ▲

「おはようございます!」毎週土曜日、劇団の稽古場に、元気な川崎の子どもたちがダンスのレッスンに集まっています。レオタードとタイツに着がえ、時々稽古場のレッスン準備を手伝ってくれて稽古が始まります。

レッスンは基本的運動を行いながら身体を鍛え、リズム感や創造性を開発し、豊かな心と身体を育成することを目指しています。自由な表現力を育て、また自分自身に挑戦する姿勢をレッスンの中で磨いていきます。

二年に一回、東京の発表会に参加し、一生懸命レッスンしてきた成果を多くの方々に観ていただいております。

また、今年は二月二日(土)のスペース東京の「お楽しみ会」に、四歳から小学三年生のメンバーがダンスを踊ります。ぜひ、観にいらしてください。

◇レッスン日 毎週土曜日(月四回)

◇時間 Aクラス 午前10時〜11時

Bクラス 午前11時〜12時20分

◇場所 京浜協同劇団 稽古場

◇年齢 四歳から

◇連絡先 川内和香子 ○三・三六五一・〇一三三

■文化の仲間ギャラリー■

若菜とき子 ⑨

